

## 平成 25 年度 第 3 回 規準関連小委員会 議事録 (案)

1. 日時および会場：2014 年 3 月 18 日 (火)、10:00~12:00、土木学会 A 会議室
2. 出席者 (敬称略)：鎌田委員長、上野幹事長 (記録)、入内島、小川、片平、川西、国枝、蔵重、坂本、田中、鶴田、野村、日比野、平塚、堀越、松原、丸岡、森、山口、久田

### 3. 配布資料

- 3-1 平成 25 年度第 2 回議事録案 (蔵重委員記録)
- 3-2 コンクリートの収縮特性評価 (JCI 報告書抜粋)
- 3-3 鋼材・補強材 WG 関連メモ
- 3-4 フレッシュコンクリート WG 今後の課題
- 3-5 硬化コンクリート WG 残された課題
- 3-6 製品・施工機械 WG 資料
- 3-7 示方書連絡調整小委員会 WG3 の活動状況

### 3. 議事

#### (1) 委員長挨拶

- ・2013 年制定規準編作成に関して、まとめの会として、今後の課題等を抽出したいと考えている。
- ・今後の体制についての話が後ほど行われる。

#### (2) 前回議事録案の確認

- ・異議なく承認された。

#### (3) 規準編に関する今後の課題について (各 WG)

##### a) セメント・水・骨材・混和材料 WG

- ・現時点では、必要に迫られて新規に要掲載の規準はないと考えている。
- ・近年、コンクリートの乾燥収縮に対する関心が高く、コンクリートの長さ変化試験は試験期間が長期に及ぶことから、資料 3-2 の、コンクリートの乾燥収縮に関する JCI から提案の試験方法試案のうち、粗骨材の乾燥収縮率の試験方

法に関するものを、関連規準として掲載すべきか否かについて検討する予定である。

→JCI 試案を掲載しているものはないのではないか。必要なものであれば、JSCE 規準として新たに制定しても良いのではないか。

→この試験方法に対するニーズ等について調査するのが良い。

→RC 示方書で収縮に関する規定があれば、試験方法が必要となる。

→今回の改正で、施工編からは乾燥収縮量の  $1,000 \times 10^{-6}$  の数値は削除され、規定の判断は設計編に移っている。記載内容の確認が必要。

・その他、各規準の中で、数値の決定根拠が不明なもの等がいくつかあり、今後、確認していく必要がある。

#### b) 鋼材・補強材 WG (資料 3-3)

・エポキシ樹脂塗装鉄筋の JSCE 規準 (16 規準) について、他の樹脂に対応可能か否か、検討が必要。用語の置換のみでは対応できないので注意が必要。

・連続繊維補強材の品質規格が、現在の規格と整合しない。整合を検討する。

・高密度ポリエチレンの品質についての説明が必要。

・JIS、ISO との整合の検討。

・試験条件が不明な規準がある。

・報告形式、書式の統一。

・(案) が取れた JSCE 規準については、適宜、英文化する方向で検討。

→JSCE 規準は、特に JIS や ISO と合わせなくても良いのではないか？

→JIS 原案としての JSCE 規準、JIS にないものを JSCE 規準で補間する意味もある。個々の JSCE 規準のスタンスにもよるのではないか。

→対 ISO として考えると、JSCE 規準を適宜 JIS にしていくのが良いのではないか。JCI の JIS 原案作成委員会へ提案することはできる。JIS 原案作成委員会の確認済みの議事録を当委員会で情報共有するのが良いのではないか。

→エポキシ樹脂関係で、品質規格を変える場合は、製造者側との整合も必要。2 種委員会のような形がベストではないか。このような場合、適宜メーカーの人に SWG のような形で参画頂くような形態が良いと考える。

#### c) フレッシュコンクリート WG

・大幅改定、新規制定の JSCE 規準はない。

・JIS 改訂に伴う整合確認の継続。

・廃止する規準についての検討が必要。

- ・引用規格の索引、被引用箇所の検索データベースがあると便利ではないか。
- 高流動の指針改訂で、L型フロー試験が削除されている。JSCEからの削除は可能かもしれないが、建築での使用を考えると、対応に困る。
- 廃止すると、「現在使用している」という指摘が来る場合が多く、JSCE規準としての廃止も慎重になるが、廃止のプロセスを検討する必要がある。

#### d) 硬化コンクリート WG

- ・資料 3-5 で、個々の規準についての要修正、要整合箇所の説明。
- ・規準の体系についての方向性の説明。
- 性能規定に伴う規準の優先順位付けは、大変難しい問題である。

#### e) 製品・施工機械 WG

- ・H101 について、温湿度条件の JIS、他の JSCE 規準との整合検討。載荷速度、容器への表示項目の検討。

#### f) 補修材料 WG

- ・温湿度条件の再検討。
- ・すり減りに関する試験方法の検討。(補修なのか硬化なのかも含め)
- ・剥離の試験法の検討。
- ・シラン系、ケイ酸塩系の含浸材の試験方法の英文化の検討。
- 英文化については、全体でいくつか選定して、随時実施してはどうか。

### (4) 今後の規準編に関する議論

#### a) 示方書連絡調整委員会の活動状況（日比野主査）

- ・主に施工編を海外で使用することを考えると、モデルコードと試験方法がセットとなる。
- ・規準編の英文化が必要と考える。
- ・JIS 外の材料類を取り扱うような論理があると良いのではないか。
- ・規準編と他の示方書との整合性の検討。
- ・検査についての試験方法の追加。
- ・設計時に用いる特性値の試験方法が必要。
- ・上記は、早急にという雰囲気ではないが、少し長い目で考えていくべきである。
- 英文化されている方が、海外展開としては良い。現地の規準にない材料などを用いる場合は、独自に JSCE 規準を英訳することもある。

## b) 今後の規準編の体系に関して

・規準編について、体系（JISのようなWG割り、作業内容（体裁のチェックに時間を使わず、本質的な内容検討を行う委員会であるべき））について検討することなどを引き継ぎ事項に含めて欲しい。「作業」を簡便にするシステムがあると良い。

→他編の示方書で適切なタイミングで引用できるように、新規制定のJSCE規準の情報を公開すべき。

→JSCE規準は、ファイル化されている方が利便性が高い。

→Web上での公開、CDなどの媒体での販売もありうる。

→引き続き、何か意見があれば、鎌田委員長、上野宛に。

## c) 過去の品質規格の見直しの手順について

→品質規格値の制定経緯について、継続調査。

## (5) 規準関連小委員会の体制について（鎌田委員長）

・規準関連小委員会は、コンクリート委員会の第1種委員会である。第1種委員会は、コンクリート委員会の基本かつ継続的な仕事をするための委員会である。

・委員は公募ではなく、指名である。

・示方書の他の編との整合の観点もあり、規準編の形態が変化する可能性もある。

・次期の体制について、常任委員会へ打診したところ、以下のような回答。

①委員長は交代する。

②新年度からの委員構成は、コンクリート委員会にて検討中。委員構成は、常任委員会に一任して欲しい。

③委員の継続／辞退の希望は調査して欲しい。

③これまでの検討事項は、次期の体制へ引き継がれると考える。

以上